

会 議 録

会議名 (審議会等名)	第3回 上溝地区まちづくり会議		
事務局 (担当課)	中央区役所 上溝まちづくりセンター 電話 042-762-5626 (直通)		
開催日時	令和6年11月19日(火) 19時00分~20時35分		
開催場所	上溝公民館 大会議室		
出席者	委員	16人(別紙のとおり)	
	事務局	2人(上溝まちづくりセンター地域政策担当 他1名)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	1 開 会 2 会長あいさつ 3 議題 (1) 地域活性化事業交付金について (2) 上溝まちづくりビジョンについて 4 その他 5 閉 会		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

1 開会

2 会長あいさつ（小林会長）

3 議題

（1）地域活性化事業交付金について

現在申請を受けている2つの案件について意見を求めた。申請のあった2つの事業については、目的や内容が制度の趣旨に合致しているものであり、地区の活性化に繋がるものであるとして、当会議の意見としては、採用すべきものとなった。

● 「高齢者の安全・安心な暮らしを支える事業」について

（上溝地域包括支援センター所長 佐藤浩史）

→過去2回地域活性化事業交付金の交付実績があり、今回が3度目の交付金申請となる。

少子高齢化や核家族化に伴い、高齢者世帯は増えている中で、高齢者が緊急事態や不自由な状態に陥ることも多い。そうした場面を見かけた地域住民が「ちょっとおかしいなあ」「でも、誰に相談したら？」と感じた時に相談できる場所があればと、上溝地区全体で高齢者を支える仕組みづくりとして「高齢者相談つなぎの家」がスタートした。

これまで、相談先を明示した掲示用プレートや周知用ガイドを作成し、協力者を少しずつ増やしながらか活動してきた。コロナが収束に向かい、今後の活動について話し合う中で、「困った時に相談できる場所を必要としている人は高齢者だけではない。対象を広げるべきだ。」との意見が出たため、対象を高齢者に限らず全ての人とすることにした。

今年度の交付金は、対象を全世代とすることに伴う既存プレートの見直し費用や周知用ポスター・パンフレット制作費のほか、周知のための講演会の開催費用も予定している。

<主な意見・質疑>

- ・ポスター制作費用を計上しているが、そのほかに周知方法は何か検討しているのか。広く周知できるように、HPを立ち上げるなど、ネットを活用した方法も良いのではないのか。

→ポスターやチラシを手取るだけでは表面的なことしか伝わらず、事業の細かいことはイメージしてもらえない。実行委員会の会議でも、事業周知にはもっと力を入れるべきとの声があった。今後は、あまりお金をかけず、できることからやろうと考えている。地域のイベントに顔を出すなどして、事業の内容を周知する機会を増やしていきたい。

・交付金3年目とのことだが、事業の効果・実績はこれまでどうだったのか。
→事業を立ち上げたころは、掲示プレートを見た方からの相談件数はだいたい年間2～3件程度。そのあとは、新型コロナウイルス感染症が拡大し、この事業も一時活動が縮小状態となった。相談件数としては年間2～3件だったが、潜在的にはもっともっと受け止めるべき案件は多いはずと考えている。そのためにも、今年度以降はやはり活動周知に注力したい。

●「上溝イルミネーション事業」について

(上溝地区自治会連合会 副会長 倉橋 強治)

→昨年度に続き、今回が2年度目の交付金事業。本事業は、上溝さくら公園内の木々にイルミネーションを飾り、約一か月間点灯させ、来場者に楽しんでもらうというもので、昨年度に初開催した際は大変好評であった。

今年のイルミネーション点灯式は12月14日(土)に開催し、自治会による模擬店のほか、上溝南高等学校吹奏楽部による演奏や上溝高等学校ダンス部によるダンスが披露される予定である。点灯式の運営には、上溝南高等学校と上溝高等学校のほか、地域で活動する各団体が参加。

イルミネーションは、点灯式の日から翌年1月11日(土)までの期間、毎日午後5時から午後8時まで点灯するので、今回も多くの人たちに楽しんでいただきたい。

<主な意見・質疑>

・イルミネーションの規模は昨年と同程度で実施するのか？
→イルミネーション装飾の範囲や規模は、昨年度と同程度を予定している。

(2) 上溝まちづくりビジョンについて

「道保川公園の豊かな“自然”と生息する“ホテル”を活かした取組みについて」というテーマで、4班に分かれグループワークを行い、時間の範囲内で話し合った内容について各グループから発表された。

<主な発表事項>

1班

- ・「イベント開催」と「ホテルを観察する」ことは、相容れない。イベントをやるならば人の活動時間である日中に行くことになるだろうし、ホテルの様子は夜の静けさの中で楽しむものとする。
- ・ホテルを守っていくためには、その餌となるものを増やしたり、ザリガニなどの外敵となるものの駆除がやはり大切である。

2班

- ・「ホテルの観察ツアー」を実施してはどうか。但し、やはり大前提として、ホテルを保全や増やす取り組みがまずは必要だと考える。
- ・前回のまちづくり会議での横浜緑地株式会社が紹介してくれた「ホテル復活プロジェクト」の取り組みは大変興味深かった。横山公園や道保川公園の指定管理をする横浜緑地株式会社とは、ここで繋がりが生まれたので、一緒に何かプロジェクトをやれたら楽しい。

3班

- ・横浜緑地株式会社が「ホテル復活プロジェクト」の一環として先日開催したイベントにサポート役として参加したが、子供の参加者があまり集まらず、そもそも地域の道保川公園への関心や愛着が薄いのではないかと感じた。地域の人たちの道保川公園に対する愛着の醸成がまずは必要と考える。

以前、テレビ東京が池の水を抜いて池の生物を調べるといったテレビ番組を放映していたが、あの映像には地域の子供も大人も多くの方々が集まっている様子が映っていた。あれくらいの注目を集める機会があれば、それを契機にその後も多くの地域の人が思い入れを持ってくれるのではないかと思います。

4班

- ・「ホテル復活プロジェクト実行委員会」のようなものを立ち上げ、横浜緑地株式会社に委員になってもらい組織づくりしてはどうか。横浜緑地株式会社が持つ様々なノウハウを取り込んで活動ができるはず。

4 その他

(1) 上溝かるた大会について【上溝地域包括支援センター所長 佐藤浩史様より】

昨年度、地域活性化事業交付金を活用して制作した大判の「上溝かるた」を使い、11月16日(土)にかるた大会を開催したところ、大変盛り上がった。12月7日(土)にもパルシステム神奈川相模センターでかるた大会を開催予定。周知にご協力いただきたい。

(2) 人生会議について【上溝地区社会福祉協議会 永野会長より】

「人生会議」とは、認知症等で自分のことを自分で判断できなくなったときのために、事前に自分の望む医療ケアや生き方について、医療機関や家族と共有する取り組みを指す。高齢化社会の中で、関心を持つ方が今後更に増えると見込まれる「人生会議」についての講座を12月8日に開催する。是非お越しいただきたい。

(3) 酉の市について【上溝地区自治会連合会 倉橋副会長より】

11月29日に本町自治会館・上溝商店街付近で「酉の市」を開催する。当日は露店出店や演芸大会も催される。是非お越しいただきたい。

(4) 溝のだるま市について【上溝商店街振興組合 鈴木理事長より】

来年1月13日に「溝のだるま市」を開催。現在、だるまの購入も受付けている。“お焚き上げ”は見応え十分なので、ご興味のある方は、是非お越しいただきたい。

5 閉会 (鈴木副会長)

以上

令和6年度 第3回上溝地区まちづくり会議 委員名簿

団体等名称	役職名	氏名	出欠席
上溝地区自治会連合会	会長	小林 充明	出席
	副会長	亀崎 武	欠席
	副会長	倉橋 強治	出席
上溝地区社会福祉協議会	会長	永野 堅次	出席
上溝地区民生委員児童委員協議会	会長	桑水流 良光	欠席
上溝公民館	館長	根岸 利昌	出席
上溝小学校PTA	副会長	鈴木 優二	欠席
上溝中学校PTA	会長	藤田 寛之	欠席
上溝南中学校PTA	会長	三留 忠弘	出席
上溝地区青少年指導委員連絡協議会	青少年指導委員	吉田 知美	欠席
上溝地区スポーツ推進委員		安藤 政彦	出席
上溝地区老人クラブ連合会	会長	新田 恭一郎	出席
上溝地区ボランティアグループ	代表	雫 幸一	欠席
相模原市消防団中央方面隊第一分団	分団長	三宅 崇之	出席
交通安全協会上溝支部	副支部長	中野 正	出席
防災専門員		中村 秀夫	出席
上溝商店街振興組合	理事長	鈴木 崇之	出席
	副理事長	小松 靖和	欠席
上溝地域包括支援センター	センター長	佐藤 浩史	出席
上溝みらい創生委員会		加藤 祐次	出席
上溝南高等学校	校長	河合 豊	出席
上溝高等学校	校長	内田 勝久	出席
相模原中央保護区保護司会	会長	清水 洋子	出席
相模原市農業協同組合 上溝支店	支店長	石井 勝	欠席